



## 20周年を迎えて

運営委員会委員長（東京大学名誉教授） 谷内 達

多摩市身のまわりの環境地図作品展は今年で20周年を迎えました。これまでに応募していただいた小中学生の方々はこのべ7000人余り、作品数は5000余りにのぼります。このようにこの作品展が20周年を迎えることができるのは、応募していただいた多数の小中学生のみなさんと応募に御協力いただいた各学校の先生方のおかげです。またこの作品展には国土交通省国土地理院をはじめとする後援団体・協賛団体からの御支援・御協力をいただいております。さらにこの事業の運営に関わる多くの仕事は、多摩市長及び市の担当部署（環境部環境政策課及びその前身の部課）が担当してされました。初代委員長の西川治先生をはじめとする歴代の運営委員会を代表して、これらの方々に厚く御礼申し上げます。

この作品展の第一の特徴は、小中学生のみなさんの自発的な活動を大切にしていることです。「身のまわりの環境」という表現での「環境」は、身近な生活を取り巻いているさまざまなものであり、小中学生のみなさんが日常生活の中で気付いたこと、疑問に思ったこと、感じたことです。したがって、地図がきれいに描かれるほうが良いことはいまでもありませんが、それ以上に大切であり期待されていることは、どのようなことに気付いたり疑問に思ったりしたのか、どのように感じたのかが地図に表されていることです。この作品展では応募作品の中から優秀賞・奨励賞・佳作が選ばれますが、選ぶときにはこのような点が重視されています。また、受賞の有無にかかわらず、作品展では応募していただいたすべての作品が展示されます。これは、何よりも多くの小中学生のみなさんが「身のまわりの環境」に関心をもっていただくことが大切だと考えているからです。

この作品展の第二の特徴は、多摩市という身近な範囲で運営されていることです。地図作品展は全国で16あり、その中で多摩市の作品展は7番目に古い歴史を持っています。全国の各作品展の募集の範囲はさまざまですが、その多くは全国・県・政令指定都市・県庁所在都市で、多摩市よりも広い範囲を対象にしています。多摩市は赤穂市（兵庫県）に次いで小さな市ですが、応募作品数では16の作品展の平均を上回っており、小さな市とはいえ活発に活動しているといえるでしょう。また運営方法について比べると、多摩市のように地方自治体（県または市）が重要な役割を担っているところはなく、他の作品展では教員・市民によるボランティア組織が運営しています。いうまでもなく多摩市の運営委員会も市内の小中学校の教員を中心とするボランティア組織であり、運営の基本的な方針や作品の審査については責任を持っていますが、募集から作品展の開催に至るさまざまな仕事では市の担当部署（環境部環境政策課）にお世話になっています。このことがこれまでの活動を続けることのできた理由の一つといえるでしょう。

今年で20周年を迎えるということは、初期の作品展に応募していただいた当時の小中学生のみなさんが今では社会の第一線で活躍されているということになります。小中学生の時に作品展に応募したという経験がその後の生活に役立つことを期待するとともに、この作品展が30周年・40周年を迎えることができるように、皆様の御指導・御協力をお願い申し上げます。